

行政視察報告書

経済地域委員会 行政視察		平成30年7月25日（水）～7月27日（金）
視察先 及び 調査事項	唐津市	九州オルレ唐津コースについて
	九州観光推進機構	九州オルレ推進事業について
	屋久島町	屋久島の自然環境を活かした観光振興の取り組みについて
	屋久島環境文化財団	屋久島環境文化村構想推進事業（里めぐり推進事業）について

九州オルレ唐津コースについて

取り組み…「オルレ」とは韓国・済州島で始まったもので「通りから家に通じる狭い路地」を意味する。日本的にはトレッキング。山道や海岸線、民家の裏道、文化財などを身近に感じながらゆっくり歩く。平成25年12月に九州オルレ第3次コースとして認定を受けオープンした。既存のコースでなく新しい道を開拓した。最大の特徴は自然や景観だけでなく「歴史」を感じることができる。名護屋城はじめ戦国武将の陣跡をめぐる。本場の済州オルレコースに似ているとも言われる。利用者は平成29年までで2,700人、うち韓国の方が1,000人。国内からは九州が90%（福岡県50%）リピーターは多い。韓国からはツアー客が主で評判は良い。課題は新規の客の獲得と宿泊率を上げる事、消費額を上げる事。また他のウォーキングコースとの発展的連携。

感想…韓国との交流という歴史の中で生まれた取り組みで、健康的だし歴史を学ぶ機会でもあり健全な取り組みだと感じた。本市では険しい山への登山のイメージだが、トレッキングコースを用意することもいい。自転車用道路は途中になっているが、併せて今後開発することは松本の魅力の発信になる。

九州オルレ推進事業について

取り組み…2011年九州への興味を喚起する新たな取り組みとして韓国のトレッキング愛好者の間で非常に人気のある済州オルレに着目し、そのブランド力を活用して九州オルレとして韓国にアピールすることとした。九州観光推進機構にて取り組み始め、社団法人済州オルレと業務提携。2012年第1次コース4コースを認定。2014年九州オルレ認定地域協議会設立。現在第7次コース21コースまで認定。オルレのコンセプトは未舗装の自然な道、安全な道、歴史や文化などテーマ性のある道、変化のあるずっと楽しめる道。課題は、継続的な地元の理解、維持管理、欧米へのPR（ラグビーワールドカップを良い機会ととらえたい）、宿泊との連動、土産物の拡大など。

感想…JR九州とも連動している。民間との協力・共同が欠かせない。九州全地域への拡大を進め、本当に努力していると感じた。

屋久島の自然環境を活かした観光振興の取り組みについて

取り組み…平成 5 年 12 月 11 日に世界自然遺産に登録。島全土でなく 21%の地域。評価された基準は樹齢 3,000 年の杉を含む原生的な天然林を有すること、1,900 種以上の植物などの生態系。入込客は平成 19 年の 40 万人をピークに減少傾向。8 月が多い、関東圏 40%、2 泊 3 泊が主。課題として大きいものはトイレの問題。トイレの老朽化、便槽容量が足りずバケツでストックし背負子で人力運搬。登山者の増加により現地処理施設は貧弱土壌で処理が追いつかず分解されない。携帯トイレを推奨している。自然遺産を維持するための協力金を平成 29 年 3 月からスタートさせた。

感想…観光客の増加によるトイレ問題は深刻。世界自然遺産という枠の中で下水処理機能の新たな立法化が必要と感じた。できれば縄文杉の現場へも行きたかった。

屋久島環境文化村構想推進事業（里めぐり推進事業）について

取り組み…林芙美子が「浮雲」の中で、屋久島は月の内 35 日雨が降っていると言ったほど雨が多い。2,000 メートルほどの山がある洋上のアルプスと言われる。口永良部島とで成り立つ。環境文化村構想は何千年にもわたって積み上げられてきた屋久島特有の生活文化を学習・研究することによって価値を見出す屋久島ならではの地域づくりの試み。中心的な組織として財団を設立。主な事業は環境学習、里のエコツアー、映画上映会など。里めぐりでは地元の方のお気に入りスポットめぐりが人気。収穫体験や食事、地場産業の紹介など。島外の方は感動するし、地元の若者は地元の再発見・再認識になる。離島が全国的には人口減少する中、ここは 13,000 人前後で推移している。

感想…屋久島特有の自然を最大限生かしている。修学旅行も多いと聞くが、こうした自然そのものを学ぶ機会としてはお勧め。島の各地で地元の方が案内する取り組みは素朴で人の温かさ・素晴らしさを体感できる。

以上です。

平成 30 年 8 月 31 日

松本市議会議員 上 條 俊 道 様

委 員 犬飼 明美（日本共産党松本市議団）